

## 6月22 - 26 日週のポンド円レビュー

June 29, 2009

### ポンド円は上値重い展開

High : 158.96 円 Low : 154.08 円

Close : 157.29 円

ポンド円は週初、欧州株価や商品市況が下落したことにつれて売りが優勢に。その後もデール英 MPC 委員の通貨安志向を示唆する発言で下げ幅を広げ、一時 154.08 円まで下落した。ただ、投信絡みの円売りフローが入ったことなどから反発に転じ 158 円半ばまで戻した。週末にかけてはポジション調整主体の動きで、一時的に売り込まれる場面も見られたが、影響は限定的だった。

6/22 (月) 156.72 円

ポンド円は軟調。英住宅価格指数 (前年比) やドイツ Ifo 景況感指数は市場予想を上回った。しかし、指標面でのさらなる改善も織り込み済みとの声も出ていたことから反応は限定的に。むしろ、欧米株価や商品市況が下落すると投資家のリスク選好度が低下し、156.42 円まで下落した。

6/23 (火) 156.68 円

前日の円高基調を引き継ぐ形となり、ポンド円も 154.08 円まで下落した。デール英 MPC 委員が通貨安志向を示唆し、対ユーロでポンドが下落したことも影響したようだ。しかし、米住宅関連指標の改善などもあり買い戻されると、156 円後半まで反発した。

6/24 (水) 156.94 円

投信設定に絡む円売りフローへの期待でクロス円が一般的に上昇。ポンド円も 158 円前半まで上昇した。その後は SNB が自国通貨売り介入を実施し CHF 円が大きく売られると、ポンド円も 156 円後半まで反落した。

6/25 (木) 157.06 円

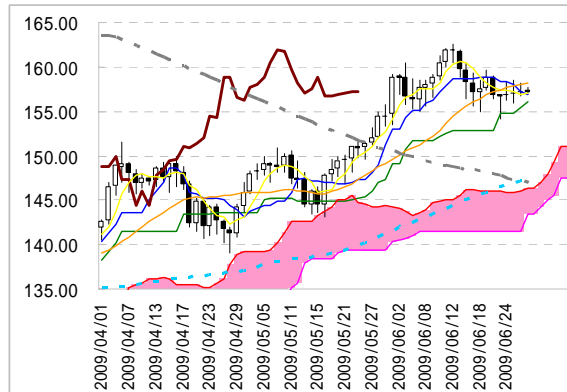
欧州タイムからドル買い基調が強まるなか、ポンドドルが大きく下落。これを受けて、ポンド円も下げ幅を広げ、一時 155.96 円まで下落した。

6/26 (金) 157.29 円

特段目立ったイベントもなく、材料不足から大きな動きは見られなかった。週末要因も絡んで積極的な取引は手控えられたようだ。ポンド円は 156 円後半から 158 円前半で方向感の定まらない動きとなった。

月日	High	Low
6/22 (月)	158.96 円	156.42 円
6/23 (火)	156.86 円	154.08 円
6/24 (水)	158.28 円	156.17 円
6/25 (木)	158.55 円	155.96 円
6/26 (金)	158.26 円	156.68 円

### ポンド円の推移



### テクニカル短期・中期ポイント

167.37 (08年7月23日高値 215.88 円と1月23日安値 118.85 円の下落幅の半値戻し)

165.06 (08年10月30日高値)

162.60 (6月12日高値 = 年初来高値)

159.63 (6月19日高値)

==== 先週末の NY クローズ 157.29 円 ====

156.09 (日足一目均衡表・基準線)

154.08 (6月23日安値)

### 英国の重要指標結果

6/22 (月) [結果] (前回)

6月ライトムーブ住宅価格指数

前月比 [-0.4%] (+2.4%)

前年比 [-5.5%] (-6.2%)

6/24 (水) [結果] (前回)

6月 CBI 流通取引調査 [-17] (-17)

### アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 155.50 - 162.60 円

テクニカル的にポンドドルは、中段もち合いパターンのフラッグを形成しているように見え、1.66 ドル定着から上方へのフラッグ・ブレイクの可能性も低くない。だが、住宅市況に改善の兆しがあるとはいえ、依然として水準は低い。総合的な経済センチメントの弱さを鑑みれば、早急にポンド買いが進む状態といえない。一段の上昇にはフラッグ上限の突破後も、しばらく新たなレンジ下限で底固めが必要。目先のポンドドル上昇が限定的なら、ポンド円も 12 日につけた年初来高値 162.60 円が差しあたったの上限となる。